

医療法人社団明徳会

十全記念病院リハビリテーション部

令和7年度

臨床実習マニュアル



医療法人社団明徳会 十全記念病院 リハビリテーションセンター

〒434-0042 浜松市浜北区小松 1700

TEL : 053-586-1115 FAX : 053-586-7950

目次

1. 十全記念病院の研臨床実習体制	
臨床実習意義について	3
教育目標について	4
初日のオリエンテーション	4
2. 臨床実習の実際	
週間・タイムスケジュール	5
病棟内での対応	5
リハビリテーション科訓練室での対応	5
実習生として	6
3. クリニカル・クラークシップ	
クリニカル・クラークシップの1日	7
クリニカル・クラークシップにおける取り組み	8

1. 十全記念病院の臨床実習体制

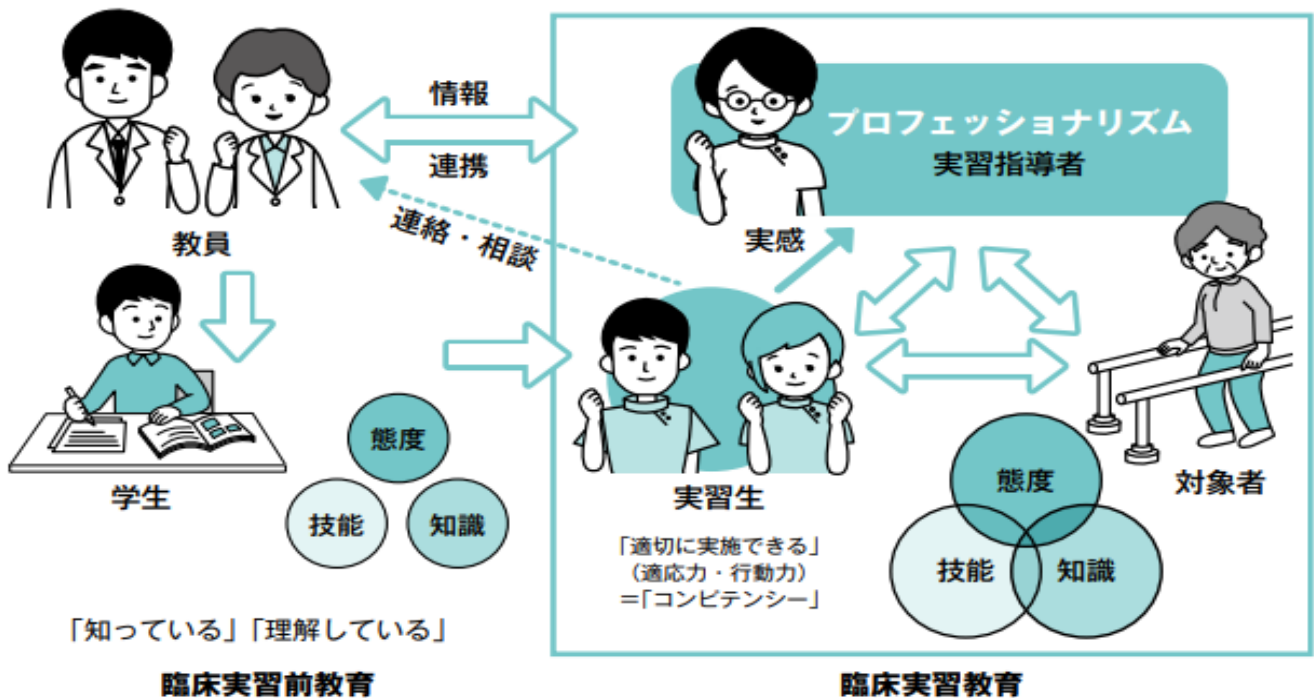
●臨床実習意義と教育目標について

○臨床実習の意義

臨床実習は、養成施設で修得した知識や技能を手がかりに、「養成施設では経験できない実践環境で、より一層の理解を深めるための教育機会」です。教科書をもとに「知っている」「理解している」という段階から、対象者に応じて「適切に実施できる」という能力（コンピテンシー）の涵養を目指すことが重要です。さらに、臨床における接遇・コミュニケーション力や職業倫理等は、療法士を目指す学生の資質面に直接的な刺激を与えます。したがって、臨床実習とは実習生が実習指導者の教育的支援の下で、対象者のためを考え、対象者と実習指導者から実践を通して学び、療法士のプロフェッショナリズムを実感するという大変重要な教育機会であり、そこには調整的役割として、養成施設（教員）と臨床実習施設（実習指導者）との連携が必要不可欠です。

「コンピテンシー」

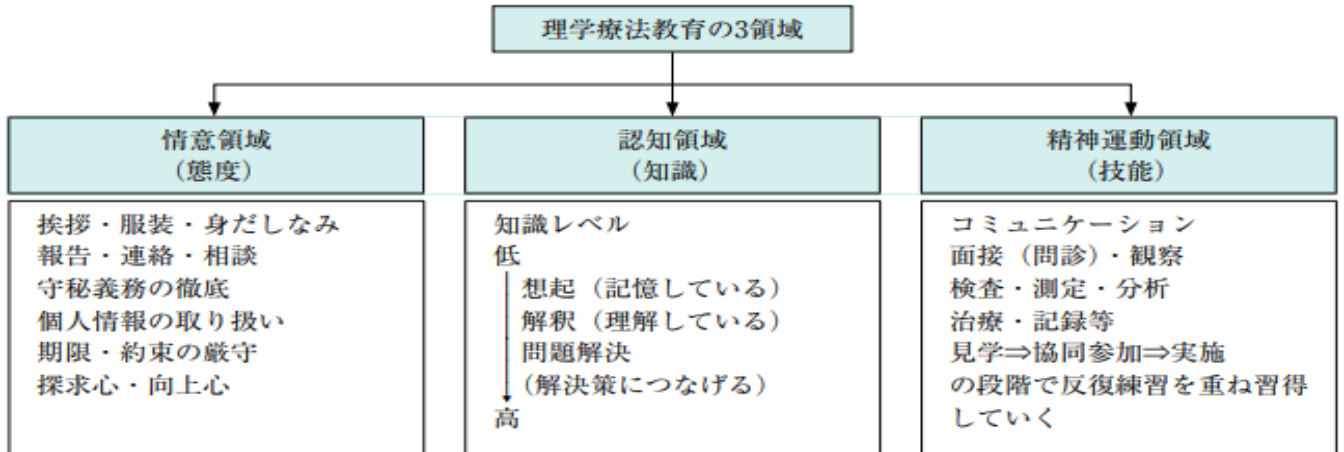
ある職務やある状況において、高い成果・業績を生み出すための特徴的な行動特性



○教育目標について

教育目標を設定する意義は、学生が「その教育によって何を習得するのか」を明確にすることで、学生・実習指導者・教員間共通の目標設定ができ、学生の目標到達度が評価できるということにあります。

以下にリハビリ分野に適用される教育目標の3領域を示します。



初日のオリエンテーションについて

1. 始業前に必要な説明を行う 【8:00～8:30】

- ロッカーで着替えを行うこと
- 学生荷物は備品倉庫で管理すること
- 待機場所、食事場所、学習スペースの説明
- 朝掃除の手順を説明する
- 朝MTで学生挨拶を行う事を説明する

2. オリエンテーションの実施 20分 【評価・総合実習】

- 実習マニュアルを学生の人数分準備して説明

2. 臨床実習の実際

●週間スケジュール

- ・実習生は基本的に土曜隔週、日祝日休み。(バイザーによる調整可能)
- ・療法別の定期カンファレンス、勉強会の予定は掲示物を参照。

●タイムスケジュール

時間	職員の動き	備考	学生の動き
～8:30	始業前準備		提出物の提出
8:30～8:40	朝ミーティング・掃除・診療	外来 8:30～12:00 受付	掃除参加
8:40～12:00	診療時間		実習参加
12:00～13:00	昼休み		昼休み
13:00～16:00	診療時間	外来 14:00～17:00 受付	実習参加
16:00～17:00	診療時間		デイリー記載

- ・土曜勤務は 8:30～12:15 ・ST 昼休み:13:30～14:30 ・学生の待機場所はスタッフルーム本棚
- ・ST 室 4(入院リハビリ室側)食事の場所として利用可能。

●病棟内での対応

- ・午前中の訓練は 11:50 までに、午後の訓練は 16:50 までに訓練を終了する。
- ・患者さんの送迎を行った際は患者さんの安全に十分配慮し、患者に応じて病棟スタッフへの連絡を行う。また、体位変換表がある場合にはその体位に合わせ、シーツ・病衣を整え、ベッド周囲を元の位置に整える。
- ・マスク着用(現在は1日1枚)。1患者1手洗いを徹底。入退室時には手指消毒しこまめな手指衛生を心掛ける。
- ・病室・病棟スタッフステーションへの入退室時に挨拶をする(失礼します、失礼しました)。リハ室は不要。
- ・医師・看護師への質問は、自分で十分調べて検討してから SV へ確認。
- ・患者・患者家族、他職種等への挨拶をしっかりと(挨拶と会釈の使い分けを)。

●リハビリテーションセンターにおける対応

- ・リハビリ職員(実習生の指導者を含む)に対しては、すべて「〇〇さん」と呼ぶ。「〇〇先生」は禁止。
- ・患者さんの入室時には、気づいた職員が「おはようございます」「こんにちは」と声を掛け、その声にあわせて職員全員が入り口のほうを確認して、患者さんに挨拶をする。
- ・診療時間内のカルテ記載:効率的に実習を行うために、空いた時間にカルテ記載を行う。
- ・患者さんに対し、診断に値する発言や不安をあおる発言をしないように注意する。
例)『今日は血圧が高いですね。』『レントゲン撮ったほうがよさそうですね。』など。
- ・電子カルテを閲覧する場合は、チームのスタッフに声をかけて ID とパスワードを入力してもらい閲覧すること。
- ・ゴミの分別に注意する。【例:マスクは医療廃棄、手袋はプラなど、不明な際はスタッフへ確認する】
- ・トイレを使用する際には便座に座る(男女ともに) ※清潔を保つために
- ・手洗い場を使用した際は、周囲の濡れた場所も拭き取るようにする。
- ・5階売店、食堂へ行く際はエレベーター1 または中央階段を使用する。医局前廊下の使用は禁止。

●実習生として

- 笑顔と元気なあいさつを心がけること。
- 下積みを経験すること。
- 許可を得てから行動すること。
 - *ただし、水分補給・トイレは遠慮せずに。
- 体調管理を大切にすること(寝不足にならないように)。マスクの着用を意識づける。
- コピーは許可を得て。
- 廊下は一列で歩く(業務時間外も病院スタッフとしての認識を持つ)。
- 行動は素早く、早足で行う。
- 学生同士で、それぞれが教わったことを教えあう時間を設ける。
- 進んで掃除、整理・整頓をする。
- 提出物(レポート等)は印刷してから提出する
- 患者さんには敬語で接する。

遅刻、欠勤するときは必ず連絡

- ① 始業 10 分前までに自分で連絡をする。
- ② 遅刻・欠勤の理由を簡単明瞭に伝える。遅刻の場合は出社予定時刻も伝える。
- ③ その日の実習の予定を伝え、業務に支障をきたさないようにする。

専門職意識を養うために

- ① 常に患者さんが気持ちよく診療し、効率的に業務が行える環境を整える気配りをする。
- ② 身だしなみを整え、靴を揃え、器具や枕の位置を整え、リハビリセンター全体を美しく見せるようにする。
- ③ 最低でも始業開始 15 分前には病院に到着するように出社する。5 分前には仕事を始める前の準備ができるようにする。
- ④ 見学する際は、患者の目線に合わせた姿勢をとるように意識する
(上から見下ろす姿勢、遠く離れた所から覗く姿勢は避ける。)

● クリニカル・クラークシップ

「クリニカル・クラークシップ」とは、学生が主体となり患者さんとの関わり合いの中から臨床医学を学ぶ「診療参加型」の臨床実習方式のことである。クリニカル・クラークシップでは、学生は指導者を含む診療チームに責任を持った一員として加わり、指導者の監督と指導のもとに実際に患者を診療する。このことを通して、学生は教科書に記載されている臨床の知識だけではなく、基礎的診療技能、現場での思考法（臨床推論）、さらに医療への態度も含めた臨床家としての能力を総合的に学ぶことになる。

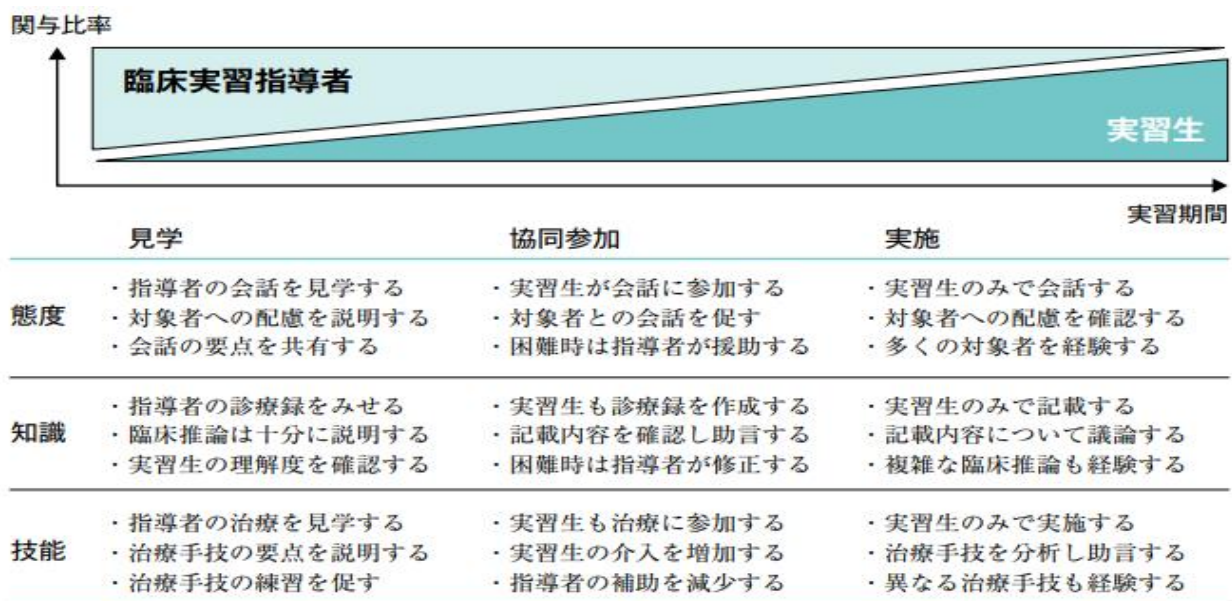
1. クリニカル・クラークシップの1日

Morning check: 受け持ち患者の夜間の状態や検査結果等をチェックして、得た情報を整理する。

診療業務 : 実習生が指導者の臨床行為を「見学」することから開始し、次に指導者と共に「協同参加」して、最後に指導者の監視下で実習生自ら「実施」します。下図が示すように実習生の関与を段階的に増加させます。協同参加では実習生と指導者が同時に対象者に接するため、直接的な伝達が可能です。最終的に指導者の補助が必要なければ実施へと移行します。見学を何回、協同参加を何回という明確な基準は無く、対象者の全身状態、実習生の臨床能力、指導者の教育力により決定します。しかし、見学が長期化することの利点は少ないため、例えば、指導者 90%、実習生 10%の関与で、早期に協同参加に移行することが有効です。病棟ではチーフ、シニア・セラピストの指示のもと、チームで患者の診療業務を行う。学生は受け持ち患者のみではなく、他の患者の状態も把握するように努め、診療の補助・手伝いをする。

※評価や診療参加するには、まず指導者から臨床場面で指導とフィードバックを受ける。指導者は学生の能力に合わせ、部分的な参加から診療参加を促し、見学中心とにならないように配慮する。

診療以外の業務: 模擬カルテを書く。デイリーノートを書く。クラークシップチェック表の記載。実習で患者さんを診療してわからなかった点を自己学習する。※SVからのフィードバックは適宜実施する。



2. クラークシップにおける取り組み

1) 無理のないプログラムを立案する

水準および学習段階を利用して、適切なプログラムを立案します。例えば、失敗が予想される重症者の移乗介助を単独で行わせるなど、実習生の能力を十分に把握せずに難易度の高い理学療法を実践させた場合、実習生は失敗を繰り返すことで挫折感を味わいます。一方、実習生の能力を判断出来ている場合、水準Ⅰの手技から指導者の行為を実習生が見学し、次に指導者と共に協同参加へと無理なく進むことができます。すべての実習生の能力が均一ではないため、個々に配慮します

2) その場で可能な限り問題解決する

指導者の質問に対して実習生が答えられない場合、常にレポートを課して自宅での時間外学修を過剰に行わせるのではなく、指導者がその場で助言・助力して、問題解決を支援します。また、実習生の自己研鑽を促すことも有効です。注意点として、課題とは教員もしくは指導者から課せられたレポートなどの提出物を指し、自己研鑽とは実習生自身が自ら学ぶものを指します。指導者は実習生のモチベーションを高めることで、自発的な学修を促すことに力を注ぎます。

3) 実習時間外の学習状況を確認する

実習生に無理な課題を要求して、実習時間外の学習が増加しているにもかかわらず、指導者が改善しないのはふさわしい行動ではありません。指導者は実習生から実習時間外での学修時間を常に聞き取るようにし、十分な睡眠時間を確保するように配慮します。例えば、夕方のフィードバック時間などを利用して、実習生の負担やストレス、実習施設外での過ごし方を聴取します。多くの実習生は睡眠不足であったとしても正しく申告しないため、評定とは無関係であることの説明や状況によっては教員に確認することも考えます。

以上、不明な点がございましたら実習指導者へ確認ください。